



社会福祉法人新栄会 オルト保育園

令和6年度 東京都すくわくプログラム

つち0歳

概要

- ねらい
- 環境構成 スケジュール
- 活動内容
- 活動の様子
- 振り返り
- 保護者への共有



テーマ 「光」





ねらい

園の窓から差し込む光でできたスポットに興味を示し光の中に入ったり、寝転んだりしていた為、様々な光ではどう表現するのか

環境構成 スケジュール

- 7月 自然光を使って遊ぶ
 - 8月 光の反射を楽しむ
 - 11月 ライトを使って遊ぶ
 - 12月 色の付いた光で遊ぶ、タブレットの光で遊ぶ
 - 2月 動く光に触れる
- プルトイ、パペット、暗幕（影遊びに親しめるように）
 - スパンコール、鏡、CD（光を反射するもの）
 - 大きな花瓶、水、懐中電灯（プールの光の反射を室内で再現するため）
 - プッシュライト（自分で点灯させ、光に親しむ）
 - カラーアクリル積み木（光に色をつけるため）
 - 大型タブレット（電子の光に触れて遊ぶ）
 - ミラーボール（動く光に触れる）



活動の内容

7月 興味のある玩具を使い、自然光で影絵遊びを行う

8月 光を反射する素材を使う、水に光を当てて反射を楽しむ
(プールの光の反射を再現)

11月 プッシュライトを使い、自分で点灯して遊ぶ

12月 透ける素材を使って光に色を付ける、タブレットの光に触れて遊ぶ

2月 ミラーボールを使い、動く光に触れる

活動の様子

・自然光に当たって日向ぼっこをしていた。暗幕を張った空間や影絵遊びでは怖がる様子があった。

・反射して動く光に興味を示し、目で追ったり触れようとして移動したりしていた。

・水を通して光を当てると、仕組みを理解しようとしてよく観察し、水や花瓶に触れていた。

・プッシュライトの仕組みを伝えずに渡すと押して光ったことに驚きその場から逃げるが、使い方を理解すると様々な場所で照らす遊びを試していた。

・タブレットを使うと光の強さや動きの速さに怖がり、あまり触れようとしなかった。

・アクリル積み木を使って光に色を付けると素材よりも光に目が行き、室内に差し込んだ光を一生懸命触ろうとしていた。



- 遊び慣れていない空間で行うと、不安や恐怖を感じて適した環境ではなかった。同じ遊びでも、行う場所や人数によって子どもの姿が変化していた。
- 仕組みや使い方を知らせずに遊び始めると、子どもたちは自分からどう遊べば良いのかを知ろうとして試すような行動を取っていた。急に光ったり手が濡れたりと驚く姿もあったが、自分で発見したことに嬉しさや面白さを感じていたようで、その後も飽きずによく遊んでいた姿が印象的であった。
- 動く光や影に対しては生き物のように感じているのではないかと思われる様子も見られた。影にはあまり触れようとせず、光には積極的に触れようとしていた。明るいものには触れようとする様子。
- 人工的な光（タブレット）は刺激が強く、好まなかった。自然光や懐中電灯のような身近な光の方が安心するようであった。

振り返り



保護者への共有

令和7年2月 オルト展を開催

ドキュメンテーションの様子を掲示



ありがとうございました

The background features three large, overlapping geometric shapes: a yellow triangle pointing downwards in the top center, a green triangle pointing downwards in the top right, and a teal triangle pointing downwards in the bottom right. A thin green horizontal line is positioned below the text.